

## 第11回日本モビリティ・マネジメント会議（松山） 事業概要

2016/6/27 時点

### 1. 主催者等

主催：（一社）日本モビリティ・マネジメント会議

共催：（公社）土木学会、愛媛大学、松山市

後援：国土交通省、愛媛県

[一般社団法人]：愛媛県バス協会、松山市タクシー協会伊予鉄道（株）、四国旅客鉄道（株）、中島汽船（株）

[新聞]：愛媛新聞、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、日本経済新聞社松山支局

[テレビ]：NHK 松山放送局、（株）テレビ愛媛、あいテレビ、南海放送、愛媛CATV

[ラジオ]：（株）FM 愛媛

[公益法人]：国土技術研究センター、日本道路協会、交通工学研究会、建設コンサルタンツ協会、運輸政策研究機構

[NPO 法人]：ITS Japan, 自転車活用推進研究会、日本風景街道コミュニティ、全国バスマップサミット実行委員会

### 2. 開催日・会場

2016年7月15日(金)～16日(土)

松山市立子規記念博物館（道後温泉）

（〒790-0857 愛媛県松山市道後公園 1-30）

### 3. 想定参加者数

400名程度

#### 4. プログラム (案)

##### 1日目 (7月15日 (金))

10:00~12:00	<b>開催地企画</b> <b>「道後まち歩きフィールドワーク</b> <b>～豊かな散策体験の演出に向けた取り組み～」</b> ※集合場所：松山市立子規記念博物館（道後温泉） 事前のお申し込みは不要です。 歩きやすい服装でお越しください（小雨決行）。
13:00~14:50	<b>オープニングセッション</b> 司会：羽鳥 剛史（愛媛大学 准教授） <b>○開会挨拶（5分）</b> 松村 暢彦 （JCOMM 実行委員会副委員長、JCOMM 専務理事、愛媛大学 教授） <b>○祝辞（10分）</b> 野志 克仁（松山市長） <b>○特別講演（45分）</b> 松本 啓治（愛媛大学 教授） 「近代松山の交通まちづくり」 <b>○講演（50分）</b> 石井 朋紀（松山市都市整備部） 「松山市の都市・交通計画とまちづくり」
14:50~15:10	(休憩)
15:10~16:10	<b>ポスター発表A・口頭発表ツール展示</b>
16:10~17:10	<b>口頭発表1</b> MMと「運動論」
17:10~18:00	<b>○JCOMM賞授賞式</b> ・デザイン賞（2件） ・技術賞（1件） ・プロジェクト賞（1件） ・マネジメント賞（2件）
18:00~18:30	(移動)
18:30~20:00	<b>意見交換会</b>

##### 2日目 (7月16日 (土))

9:00~10:00	<b>口頭発表1</b> MMとビッグデータ
10:00~10:10	(休憩・レイアウト変更)
10:10~12:10	<b>企画セッション</b> JCOMM企画セッション 「地方鉄道の活性化を考える」
12:10~13:00	<b>休憩・昼食</b>
13:00~13:30	<b>JCOMM総会</b>
13:30~14:30	<b>ポスター発表B、口頭発表ツール展示</b>
14:30~16:00	<b>特別セッション</b> 「MMのはじまりと未来」
16:00~16:30	<b>クロージングセッション</b> 主催者挨拶・次回開催地挨拶

第11回日本モビリティ・マネジメント会議  
口頭発表・企画セッション・ポスター発表

(2016/6/27 時点)

●企画セッション・口頭セッション

1日目(7/15(金))

●特別講演：「近代松山の交通まちづくり」 13:45~14:00

松山の市街地は路面電車の環状の路線内に、行政施設、商業施設、文化施設が集積しているコンパクトシティを形成している。もともと松山は松山城を中心に発達した城下町で、道後温泉で有名な古くからの温泉地としても栄えた。江戸期は、三津浜から松山まで水運でさまざまな物資を運んできたが、明治期以降の松山の社会・経済の発達には鉄道が大きな役割を果たした。1888年(明治21年)に三津・松山間に伊予鉄道が全国初の軽便鉄道として開通したのを皮切りに1895年道後鉄道、1896年南予鉄道が開通した。その後これらは伊予鉄道へ統合され、のちに激しい需要獲得競争を展開した松山電気軌道との1921年の合併により、伊予鉄道は松山、道後、高浜、郡中、横河原にいたる一大ネットワークを築きあげた。太平洋戦争により松山も空襲の被害を受けることになるが、こうした鉄道ネットワークは、道後温泉の観光、郊外沿線部の住宅開発、海浜部の娯楽の今に至る人々の移動の基盤として役割を果たしている。

講演：松本 啓治(愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門 教授)

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●講演：「松山市の都市・交通計画とまちづくり」 14:00~14:50

松山市は、瀬戸内海の豊かな自然や温暖な気候に恵まれ、現存12天守の「松山城」や日本最古の温泉と言われる「道後温泉」などの観光資源を有する、四国で唯一の人口50万人を超える都市である。本市では、多くの地方都市と同様に、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、環境問題の深刻化などの社会的課題に直面しており、自立可能な都市経営が求められている。

そこで、目指すべき都市像として都市計画マスタープランで「コンパクトで質の高いまち」を掲げ、温暖で雨が少なく、平坦で坂道が少ない地形や、全国に17都市にしかない路面電車などの「地域の宝」を活かした、歩いて暮らせるまちづくりを進めている。

コンパクトなまちを形成するためには、過度な自動車利用の抑制し、公共交通を利用促進する必要がある。郊外の鉄道駅では、交通事業者と協同して交通結節点を整備するなど、公共交通のサービス水準向上を図っている。都心部では市街地整備を実施しており、ロープウェー街や道後温泉地区では、自動車の空間を歩行者の空間に再配分し、賑わいが戻りつつある。

また、まちづくりフォーラムや、多様な主体とのワークショップなどを通じて、市民がこれからのまちづくりを身近に感じ、参加していくきっかけをつくり、自発的に望ましい行動に転換することを促す、モビリティ・マネジメントとしての活動も実施している。

今後も、過度に自家用車に頼ることなく、子どもからお年寄りまで誰もが円滑に移動でき、笑顔で暮らすことのできる都市となるよう、土地利用や公共交通の見直しなどに挑戦していきたい。

講演：石井 朋紀(松山市都市整備部 都市・交通計画課 課長)

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●口頭発表1 16:10~17:10

MMと「運動論」

0-1	城平 徹	(株)ケー・シー・エス東京支社	市民生活に浸透した移動手段に育てるための コーちゃんバスの継続的取り組み
0-2	森栗 茂一	大阪大学 コミュニティ・デザインセンター	住吉台くるくるバス実証実験から開通10年 の住民活動による地域の持続可能のみとおし
0-3	山口 晋弘	技術第一部社会システムグループ 日本工営(株)大阪支店	市民参加型モビリティ・マネジメント 「まち歩かんね、クルマ減らさんね運動」の 立ち上げと今後の展望

●企画セッション・口頭セッション

2日目 (7/16(土))

●口頭発表2 9:00~10:00

MMとビッグデータ

0-4	柴宮 義文	国土交通省総合政策局 情報政策課	ビッグデータの活用等による 地方路線バス事業の経営革新支援
0-5	渡辺 喜道	山梨大学大学院総合研究部	山梨県八ヶ岳地域のバス運行状況の 可視化への取組
0-6	太田 恒平	(株)ナビタイムジャパン	電車混雑予測

●企画セッション① 10:10~12:10

「地方鉄道の活性化を考える」

地方の民間鉄道は地方中核都市や山間部を走り、地方住民の“暮らしの足”となっている。しかしながら、地方の民間鉄道の沿線では、人口の過疎化や自動車交通の発達などから、鉄道の輸送人員の減少に歯止めがかからず、経営は苦しいものとなっている。その結果、残念ながら廃線に至った路線もある。

一方で、創意工夫で逆境に立ち向かっている地方の民間鉄道会社もある。沿線住民との多様かつ積極的な連携、新たなアイデア等により、逆境に果敢に挑戦し、地方の鉄道を活気づけ、そして地域全体の活力へとつなげている。そこにはMMの基本とするところである「コミュニケーション」の存在が大きい。その上で、地域の足としての役割を果たすため、様々な経営努力が展開されている。

本企画セッションでは、これまでに地方鉄道の活性化に果敢に挑戦してきた民間鉄道会社の皆さんと一緒に議論し、地方民間鉄道におけるMMの役割、またそれらを踏まえた地方民間鉄道の今後の展望を探る。

コーディネーター：

宇都宮 浄人 関西大学教授

パネリスト：

中尾 均 伊予鉄道 常務取締役

山本 孫久 とさでん交通(株) 運輸戦略事業部電車事業推進課 課長

山田 和昭 若桜鉄道 代表取締役社長

村尾 俊道 京都府建設交通部 交通基盤整備推進監

●企画セッション② 14:30~16:00

「MMのはじまりと未来」

日本モビリティ・マネジメント会議が発足して10年がたった。この間、わが国においてモビリティ・マネジメント施策が多様な人々により、様々な地域で実践され、豊かな社会づくりに寄与してきた。その一方で、MMはバスマップ配付など単なる公共交通の情報提供施策と見られる向きもある。モビリティ・マネジメントは、「モビリティ・マネジメント」という言葉が定着する以前、社会的交通マネジメントと呼ばれていた時期がある。この言葉からもわかるように、交通行動の社会的な側面を重視し、意識や行動の自発的な変容を期待する「社会的」なアプローチを公共政策に提起したことに大きな意味がある。こうしたモビリティ・マネジメントの原点、はじまりの物語を共有したうえで、これからのMMの可能性や展開の方向性について語り合う。

パネリスト：

石田 東生	筑波大学教授、 前・(一社)日本モビリティ・マネジメント会議 代表理事
藤井 聡	京都大学教授、 日本モビリティ・マネジメント会議 代表理事
原 文宏	(一社)北海道開発技術センター、 前・(一社)日本モビリティ・マネジメント会議 理事
吉木 務	国土交通省総合政策局交通計画課地域振興室 室長 日本モビリティ・マネジメント会議 幹事

司会：

大井 元揮	(一社)北海道開発技術センター 調査研究部 主任研究員 日本モビリティ・マネジメント会議 理事
-------	--

※タイムテーブル、セッションタイトル等は変更の可能性があります

●ポスター発表A

1日目(7/15(金) 15:10~16:10)

NO.	発表者	所属	タイトル
PA-01	土井 勉	大阪大学	総合交通政策を担う人材育成プログラムの開発と実践 ～NPO法人・再生塾の取り組みを通して～
PA-02	安達 明久	常葉大学経営学部教授	富士市におけるパークアンドライド導入可能性の定量的検討
PA-03	道木 健	(株)新日本コンサルタント	北陸新幹線アクセス交通の整備及び利用促進に関する 黒部地域公共交通網形成計画に基づく総合的な取り組み
PA-04	鶴林 泰樹	大分大学経済学部	外国人FIT旅行者に対する公共交通情報提供のあり方に関する研究 —別府市の事例より—
PA-05	豊木 博泰	山梨大学大学院総合研究部	「やまなしバスコンシェルジュ」でのバス到着予想時刻サービス向上に向けた バスロケ情報の解析
PA-06	小美野 智紀	(株)ドーコン東日本事業本部	バルセロナの総合的な都市交通戦略からみたモビリティの一考察 ～なぜモビリティは必要なのか～
PA-07	山内 健太郎	東温市役所	東温市における継続的なMM施策の推進と今後の展開
PA-08	加藤 透	(公財)豊田都市交通研究所	エコ交通意識を醸成する豊田エコ交通出前教室の開発
PA-09	下川原 優一	埼玉県都市整備部都市計画課	埼玉県における「出歩きやすいまちづくり」推進に向けた取組 ～バスでつなぐ・人がつながる～
PA-10	日高 洋祐	東日本旅客鉄道(株)	公共交通機関が連携した情報提供サービスによる行動変容の評価
PA-11	矢内 克志	京都市都市計画局歩くまち京都推進室	小学校における「歩くまち・京都」プロジェクト ～モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けて～
PA-12	森川 信	阪神高速道路(株)	NAVITIMEを用いた阪神高速での工事通行止め迂回ルート案内
PA-13	岡本 英晃	(公財)交通エコロジー・モビリティ財団	モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及に向けた手引書の作成
PA-14	松本 隼宜	宇都宮大学大学院工学研究科	新規バス路線利用促進のための健康意識に働きかけるMMの効果分析
PA-15	井上 茂	東京医科大学公衆衛生学分野	健康身体活動関連政策監査ツール(PAT)を用いた 都道府県交通政策の評価
PA-16	後藤 美菜子	仙台市都市整備局 総合交通政策部公共交通推進課	地下鉄東西線開業に向けた「せんだいスマート」
PA-17	山室 良徳	中央復建コンサルタンツ(株) 計画系部門	西宮市生瀬地域における地域ぐるみによる 持続可能なおでかけ交通の取り組みについて
PA-18	田中 徳人	宇陀市企画財政部企画課	宇陀市内の小学校と連携した 「バスの乗り方・バリアフリー教室」の取り組みについて
PA-19	関 陽水	海外事業本部交通計画部 (株)アルメックVPI	バイク依存からの脱却は可能か?ベトナムにおけるMMの取り組み
PA-20	楊 甲	(公財)豊田都市交通研究所	大規模な路線改編のフォローアップによる利用動向の考察 —愛知県みよし市「さんさんバス」を事例に—
PA-21	西堀 泰英	(公財)豊田都市交通研究所	5年間のひょうごスマートムーブの歩みと成果
PA-22	芝崎 拓	(一社)北海道開発技術センター 調査研究部	路線バス「夕陽ヶ丘線」における高齢者を対象とした利用促進策の実施
PA-23	田中 克朋	福岡市住宅都市局交通計画課	転入者に対する公共交通情報の提供 ～福岡市における転入者MMの取組みについて～
PA-24	中山 昂彦	京都大学大学院工学研究科	道路空間デザインが歩行者意識と 歩車間コミュニケーションに及ぼす影響に関する研究
PA-25	倉森 右安	大阪市都市計画局計画部都市計画課	MMの取り組みにおける事業費と取り組み内容の関係について (大阪市港区における国道43号沿道の環境対策)
PA-26	上村 達也	国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部都市圏道路計画課	道路パフォーマンス向上に向けた新たなエリアマネジメントとしての 共同配送社会実験の取り組み
PA-27	徳光 宏樹	(株)Remoword	簡易VRツールを用いた多様なMM展開の可能性

●口頭発表ツール展示

NO.	発表者	所属	タイトル
O-02	森栗 茂一	大阪大学 コミュニティ・デザインセンター	住吉台くるくるバス実証実験から開通10年の住民活動による 地域の持続可能のみとおし
O-03	山口 晋弘	技術第一部社会システムグループ / 日本工営(株)大阪支店	市民参加型モビリティ・マネジメント 「まち歩かんね、クルマ減らさんね運動」の立ち上げと今後の展望

●ポスター発表B

2日目 (7/16(土) 13:30~14:30)

NO.	発表者	所属	タイトル
PB-01	福井 のり子	(株)バイタルリード	自動車運転免許返納に対する高齢者世帯のジレンマ : 納得のゆくモビリティ環境を求めて
PB-02	岩里 泰幸	阪神高速道路(株)保全交通部交通企画課	「阪高SAFETYナビ」によるドライバーへの事故リスク情報の提供
PB-03	石川 裕二	大分大学経済学部	地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究 —地元高校生と地元大学生の協働による「大人の社会見学」事業を通じて—
PB-04	村尾 俊道	京都府建設交通部交通政策課	観光・まちづくりと一体となった地方鉄道再生 ～需要追随型から需要創造型のマネジメントへ～
PB-05	阿波根 庸夫	企画部交通政策課/沖縄県	バスがかわるバスでかわる。「わたつた～バス党」4年の取組み
PB-06	市岡 隆	(株)社会システム総合研究所	みんなが使える低コストのバスロケーションシステムで公共交通の利用促進
PB-07	藤村 美月	筑波大学	電車内マナー遵守行動とマナー啓発メッセージの関係性 —どんな人に、どのようなメッセージが効くか—
PB-08	岩崎 裕直	(公財)仙台市建設公社	鉄道新駅の開業を契機とした継続的なまちづくり促進施策
PB-09	大野 悠貴	弘南バス(株)	バスをちよい足し！弘南バスの「バスぶらずプロジェクト」について
PB-10	伊藤 烈	企画推進部/(株)アカネクリエーション	わかっちゃいるけどやめられないクルマ社会・沖縄における 通勤手段利用転換モデルの考察
PB-11	永見 正行	TMO	交通ゲームの開発と実践概要について～
PB-12	佐々木 健市	札幌市まちづくり政策局総合交通計画部	札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取組み
PB-13	矢内 克志	京都市都市計画局歩くまち京都推進室	山科急行線をモデルとした高速路線バスの生活者利用促進に向けた 地域特化型モビリティマネジメントの実施
PB-14	山崎 基浩	(公財)豊田都市交通研究所	スマートフォンによる助言型ISAの高齢者への効果と受容性
PB-15	石川 雄己	名城大学大学院理工学研究科 建設システム工学専攻	多様な住民参加を可能にしたワークショップの工夫と参加意欲への影響 ～岐阜県美濃加茂市をケーススタディとして～
PB-16	藤本 宣	リスク工学専攻/筑波大学大学院	ベトナムの大学生の交通行動変容の可能性～どの動機付けが有効か～
PB-17	立川 太一	中央復建コンサルタンツ(株)	若桜鉄道の利用促進に向けた取組み
PB-18	佐々木 洋典	筑波大学大学院博士前期課程1年 システム情報工学研究科リスク工学専攻	大和市職員の交通行動と健康・心理指標の関係性 —性格・主観的幸福感・地域愛着・ソーシャルキャピタル・運転動機に着目して—
PB-19	阿部 正太郎	(株)建設技術研究所	明石の交通ブランド戦略による公共交通利用の促進
PB-20	佐野 正	(株)ケー・シー・エス東北支社震災復興室	震災復興とともに変化する交通需要に対して既存資源を活用し 行動変容へ繋げる取組み ～大船渡市におけるデマンド交通・タクシー補助制度の実証実験の事例～
PB-21	金丸 晃大	(株)ケー・シー・エス	八代市における高校生を対象としたモビリティ・マネジメントの取組み
PB-22	浅岡 道太	豊橋市都市計画部都市交通課	自転車通勤への転換促進に向けた意識変革の取組み
PB-23	伊地知 恭右	(一社)北海道開発技術センター	弘南鉄道大鰐線における総合的なMMの実践
PB-24	三上 和宏	八千代エンジニアリング(株)	クルマ中心の山梨県における“エコ通勤”への挑戦
PB-25	高井 健一	国土交通省四国地方整備局 松山河川国道事務所計画課	国道33号のGWにおける渋滞緩和に向けた取組み
PB-26	飯野 昭則	京都市西京区松陽自治連合会	京都市西京区における地域住民主体のモビリティマネジメント(MM)の面的な 展開～地域住民・行政・交通事業者の強固なタッグによる市バス路線拡充、 利用者増・利便性向上の実現と好循環の形成～
PB-27		スマート通勤おかやま実施事務局	岡山都市圏における長期に展開されるMMの活性化に向けた取組みとその 成果

●口頭発表ツール展示

NO.	発表者	所属	タイトル
O-04	柴宮 義文	国土交通省総合政策局情報政策課	ビッグデータの活用等による地方路線バス事業の経営革新支援
O-06	太田 恒平	(株)ナビタイムジャパン	電車混雑予測